



第81号

2019. 8. 20

(公社)津法人会 青年部会

津市広明町121番地

津税理士会館4階

TEL(059)225-1302

<http://www1.mint.or.jp/~hojinkai/seinenbu/>

提 言

「ホウレンソウとオヒタシ」

いきなりですが「ホウレンソウ・オヒタシ」についてご存知でしょうか？当たり前ですが料理の出来ない私がレシピについて書く訳ではありません。「はげみ」をお読みの皆様にとっては「今更」と思われる方も多いのかもしれません、私は恥ずかしながらつい最近になって妻から聞いたことです。「今はホウレンソウにオヒタシがつくんだよ」と言われて意味が分からず、言われた時には「はあ？」と聞き直すほどでした。妻も新聞か雑誌の記事か何かで見たようでしたが、どうやら「最近の新人育成のコツ」とのことでした。まず「ホウレンソウ」は「報告・連絡・相談」のことです、新人教育では「挨拶」と同時に教えるほど重要なことです。これについては今でもよく耳にしますし、私が就職した何十年も前から不変のものです。そして肝心の「オヒタシ」ですが、これは新人に教えることではなく、むしろ上司が新人育成において心がけるべきものようです。内容は「怒らない・否定しない・助ける・指示する」の4つで「ホウレンソウ」と同じように頭文字をとって表します。これを聞いたときに私は腰から砕け落ちそうになりましたが、落ち着きを取り戻してから一人ネット検索してみました。「怒らない」は叱るのは良いが感情的になって怒ってはならな

い。「否定しない」はネガティブに捉えず、「なるほどそういう意見もあるね」とポジティブに捉える。「助ける」は出来るまでサポートする。「指示する」は指示待ち人間にならないように注意しながら適度な指示を出す。そんな風に書いてありました。椅子に座っていたので腰から砕け落ちることはませんでしたが、椅子ごとひっくり返りそうになりました。「日本もついにここまで来たか・・・」「AI化が進み、ここ数年で労働人口は今の半分で充分と言われていることを君らは知っているのか？」「あ・・・もう嫌だ。仕事が手につかない」などと考え、手と足はブルブル震え、椅子から立ち上がりれるのか心配になるほどでした。しかし、2分ほどするとある一つの言葉が空から降りてきました。それは「新人類」。そう、何十年も前に新人であった私がよく言われた言葉。上司や先輩から言わされた記憶が昨日のことのようによみがえってきました。すると「あ、そうか！時代は繰り返されているのだ！」「若者を理解する努力もせねば」となぜか気持ちも楽になり、気づくと手と足の震えは治まっていました。そしてこう思うのでした。「よし！新人類のお手並み拝見と行こうか！」と。さて、読み終えた皆様の手と足は震えていませんか？

新部会長からのメッセージ

公益社団法人 津法人会 青年部会 部会長 楠 幸治



この度、公益社団法人津法人会青年部会の第20代部会長を拝命いたしました、楠 幸治でございます。各界で活躍されている諸先輩のあとを託されるということと、身の引き締まる思いですが、これも自分自身を成長させる良い機会と思い、精一杯頑張って参る所存です。

平成から元号も令和に代わり、軽減税率が適用されてくるなど、税制自体が大幅に変化していき、また、世界情勢も一段と複雑化していく非常に時代の流れが速い中で、我々、津法人会青年部会も常に時代の先読みを忘れず、会員の皆様をはじめとする多くの皆様により一層喜んで頂ける様な運営をしていかなければと考えています。

さて、これから二年間は、「わいわいがやがや、わくわくどきどき、令和の時代に広げよう、津法人会青年部会の輪！」というキャッチフレーズで、令和の「わ」、三つの輪を重点的に進めて参ります。

一つ目の「わ」は「わいわいがやがや」の「わ」です。わいわいがやがやということで、会員同士の親睦の場をしっかりと設け、沢山の皆様が一堂に会して頂けるような、そんな雰囲気づくりを進めたいと思います。沢山の方々がわいわいがやがやして頂くことで、税や事業に関する情報交換に盛り上がって頂き、地域活性化の一助になればと考えます。また、わいわいがやがやと積極的に「全国青年の集い」にも参加できればと思います。

二つ目の「わ」は「わくわくどきどき」の「わ」です。わくわくどきどきできるような研修を実施していきたいと思います。人間は単純なもので、わくわくどきどきしている時には想像以上の力がでます。わくわくどきどきしながら積極的に研修

に参加頂き、そしてその研修の成果をフルに活用して頂ける様な運営をしていきたいと思います。また、わくわくどきどき出来る様な租税教育活動を実施していきたいと思います。次の世代を担う若い方々に「税金は人を想う気持ち」であることを、わくわくどきどきしてもらいながら、伝えていくことにより、将来の地域活性化の一助になればと考えております。

三つ目の「わ」は「津法人会青年部会の輪」ということで、よりよい仲間づくりができるよう、会員拡大につとめて参りたいと思います。また、この輪を既に卒業された皆様とも大切に繋げていければと思っています。そして、この輪に「健康経営の輪」も加えていきたく考えております。健全な財務体質を目指すには、経営者自身が健康であることが不可欠です。この「健康経営」を日頃から意識すべく、津法人会青年部会競争部を盛り上げて、津シティマラソンにも積極的に参加していきたいと思います。

この三つの「わ」で二年間盛り上げていければと思っておりますので、どうぞ皆様何卒宜しくご指導の程宜しくお願い申し上げます。

ちょうど我々の年齢は、まさに事業承継や相続の問題、そして消費税の問題に直面しています。また大きな目でみますと、医療制度や年金制度が非常に難しい局面を迎える、教育費の問題等、いかにして財源を確保し、よりよい社会づくりをしていけるか？まさに、身近なことから将来にすることまで、税金について学ぶべきこと、考えるべきことが非常に沢山あります。是非とも、津法人会青年部会を多いに活用して、税金について大いに学び、税金について大いに語っていければと思います。

それでは、これから二年間、新部会長として頑張って参りますので、どうぞ皆様宜しくお願い申し上げます。

(公社) 津法人会青年部会定時総会開催される

5月27日、津税務署 署長 中村佳示 様をはじめとする多くの来賓のご臨席を賜り、都シティ津において2019年度の定時総会が開催されました。亀井部会長を議長とし、その進行の下、平成30年度の事業報告及び収支決算と、2019年度の事業計画及び収支予算が報告されました。また2019年度と2020年度の新役員が承認され新年度がスタートしました。

記念講演会

日 時：令和元年5月27日(月) 15:00～16:30

場 所：都シティ津

「町工場発！二代目社長の 経営改革と人材育成」

講 師 ダイヤ精機株式会社 代表取締役

諏訪 貴子 氏



本年度の記念講演会は、「町工場の娘」で出版、「マチ工場のオッナ」でドラマ化された、ダイヤ精機株式会社の諏訪貴子社長にご講演頂きました。

今では企業として・経営者として着実に実績を残されているものの、特にリーマンショックの際に売上80%～90%ダウンが続いたときには本当に苦労されたそうです。

今回の講演の中で、その際に挑戦したお話が非常に印象的でした。

お客様についていくためのグローバル化は無理、町工場を支えるくらいなら自分の営業で何とかなると思ったものの、難しかった。そこで、会社の名前を売れば業績が回復すると信じ、社員からの大反対の中、「賞金が出るから」と納得してもらい「賞」に挑戦します。

結果、「勇気ある経営大賞」(優秀賞)「人材育成知事賞」(奨励賞)「ワーマンオブザイヤー」(大賞)と輝かしい実績を残します。

もしメディアに取り上げられた内容を自費で行うと、8,000万円～15,000万円かかるという事でした。これで売上が伸びると思ったら、まったく駄目。

そこで気付いた事が、自社の事業は鉄を1ミクロン単位で削れる優れた技術が強みであるものの、非常にニッチな職業が宣伝したらすぐに売れるものでは無いという事。ただ、世間に知ってもらえたことで、自社の強みを生かせる取引先への営業が非常にスムーズにいったとのことです。どんな企業でも自社の存在を知ってもらうことの重要性を感じました。

常に挑戦し続ける諏訪社長のスタイルですが、これまで様々な苦難を乗り越えられたのは「社員に頼り頼られる」の関係が非常に上手くいっているからこそだと感じました。諏訪社長が会社の旅行で社員に言わされた言葉「俺たちはどんなことがあっても社長に一生ついていくからな！」は経営者として本当に嬉しかった言葉だと思います。

麻生総理とのエピソードや諏訪社長が何故人前で上手く語ることが出来ているのか等、まだまだ書き足りない内容もありますが、参加者のみが知っていることも必要かと思いますので、この辺で。

諏訪社長、同じ中小企業の経営者として非常に参考になるご講演をありがとうございました。

本年度卒業される方 (順不同・敬称略)

池田 和司	株式会社 アイケーディ
近坂 祐吾	株式会社 エイト不動産L a b
坂井 治美	株式会社 エスト
土井 一成	有限会社 大西興業
川北 雅一	有限会社 川北カンバン
鶴飼 仁	株式会社 トラベルラボ
蘭部 俊夫	株式会社 福寿軒
伊藤 博康	有限会社 平治煎餅本店
山岡 幹也	有限会社 山岡運輸



2月例会

日時：平成31年2月21日(木) 19:00～20:30

場所：アストプラザ 4F研修室A

講 師 津税務署 法人課税第一部 統括国税調査官 玉津 明洋 氏



2月21日、アストプラザにおきまして青年部会2月度研修例会を開催しました。

今回は、津税務署 法人課税第一部 統括国税調査官 玉津明洋様をお招きして『軽減税率制度について』と題してご講演いただきました。

制度自体が複雑ですので、この短時間での講演をいただくにあたり、玉津様にはかなり無理難題を押し付けてしまいました。

ですが、我々が聞きたい知りたいであろう所に要点をしぼり、分かりやすくご説明頂きました。

それでも軽減税率の対象となるものが多岐にわたり設定されてることを知り、実施日までに勉強しておく事や準備しなくてはいけないとの多さ

にビックリしました。

軽減税率制度以外にも、消費税軽減税率対策費補助金の概要として、増税の実施前に準備しなといけない事や、その準備に対しては様々な補助金の制度があるとの事も教えていただきました。

他にも、経過措置の概要として施行日以降でも8%にて適応されることが多いとの事でした。自身の仕事に関する対象制度もあり質疑応答の時間では細かな質問が相次ぎ、非常に有意義な研修になったと思います。

お忙しい中、ご講演してくださった玉津統括官、そしてご参加いただいた会員の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

7月例会

『働き方改革』

～法改正で何が変わらるのか～

日時：令和元年7月24日(水) 19:00～20:30

場所：アストプラザ 4F会議室1

講 師 社会保険労務士 田中 好昭 氏



30名の出席者を前に社会保険労務士田中好昭先生にご講演いただきました。今や「働き方改革」という言葉を知らない人はいないくらいの大きな動きになっています。しかし、実際の運用や細則についてはまだまだ知らないことが多いことをあらためて認識させられる時間となりました。時間外労働の上限などは具体的な数値例をもって解説され、とても分かりやすい講義でした。

最低賃金はこれからどんどん上がり、残業は減

らし、取得有給を増やし、職場環境を改善していく。これは企業が収益を出し続けることと同じくらいに大きな命題であるのかもしれません。良い人材を確保し、多くの国民が幸せになるために経営者はこれらに果敢に取り組んでいかなければならぬ。さもなくば雇用を確保できず企業は衰退の道を辿っていくのでしょう。「顧客第一」とよく言われましたが「雇用第一」そんな時代の到来を感じました。

租税教育活動

津市教育委員会・

三重大学教育学部附属小学校

贈呈式

3月12に日附属小学校、14日に津市教育委員会を訪問し授業中の写真が入った下敷と租税教育用冊子を、市内の小学5年生全員に配布していただけるよう、贈呈させていただきました。

小学5年生を対象に授業形式で租税教室を始めて8年になります。

贈呈式では、租税教室を今後も継続していただきたいともお言葉をいただきました。年々期待が高まっていることを実感し、より良い租税教室の実施の必要性を改めて感じました。



▲ 津市教育委員会にて



◀ 附属小学校にて

租税教育活動報告

高野尾 小学校

平成30年10月18日（木）に高野尾小学校にて、今年度最初の租税教室を開催しました。対象は小学5年生の1クラス・13名の子供たちで、青年部会からは9名とシロモチ君が参加しました。最初は緊張していた生徒たちも少しづつ慣れてきて、シロモチ君の登場でさらに大盛り上がり。最後に一人づつ全員に1億円を持ってもらい、その重さも実感してもらいました。児童たちも積極的に参加して発言してくれて、今年度最初の租税教育も大成功に終わりました。



倭 小学校

10月22日、白山町の倭小学校にて租税教室を開催しました。授業前に低学年の皆さんとシロモチ君とのふれあう時間を設け写真撮影等を行い、喜んでいただきました。5年生のみなさんには税のしくみが良く理解いただけたと思います。運営に多少戸惑ったところはありましたが、熟練の講師による巧みなトークで子供たちも楽しんで過ごすことができました。

来年以降も楽しみにしていますと嬉しいです。



新町 小学校

11月30日、津市立新町小学校にて「租税教室」を行いました。今回の講師側は何度も講師役を務めたベテランが多く、進行などで心配することは無かったのですが、児童たちのテンションがどうかという事は授業がスタートするまで分からず、毎回の心配事となっています。おとなしい子供たちが多い年、にぎやかなクラスなどまちまちです。幸いに新町小学校の児童たちは、今回も積極的な姿勢で参加してくれて大変ありがたかったです。但し、こちら側が気をよくしてあまりテンションをあげすぎると、力の入りすぎで自己紹介が長くなってしまったり、アドリブを加えすぎて授業が押し気味になります。今回の授業がまさにそのものであったように思います。回数は重ねても日々の鍛錬が必要だと感じる「租税教室」でした。



三重大学 教育学部 附属小学校

12月11日（火）に三重大学教育学部附属小学校にて租税教室を開催いたしました。対象は小学5年生の3クラス・96名の子供たちでした。附属小学校での租税教室は今年度で5年連続5回目となり、先生方の協力のもと、慣れた環境で行われました。少ない講師ながらも効率よく役割分担ができ、段取りよく進行することができました。子供たちも落ち着いた様子で、静かに熱心に授業を受けてくれていました。そんな中、シロモチくんが転倒しそうになるハプニングもあり、少し緊張感のあった教室にも笑いがおこり和んだ雰囲気となりました。

今後も租税教室を通して、子供たちに税金の大切さを伝えていければと思います。



明合 小学校

平成30年12月12日、底冷えするぐらいの寒い日となった租税教室でした。

安濃町の明合小学校はもう何度も伺っていた小学校です。

小学5年生は11人と少数クラスでしたが、その分みんな仲が良くて、まとまりのあるクラスと感じました。

男の子が2人と、やや女の子に圧倒され気味ではありますでしたが、楽しく租税教育を行いました。

授業中も終始みんなのリアクションもよく、我々も楽しく授業を行うことができました。先生も若く、シロモチくんの登場にみんなが大喜び！来年もぜひ参加したいと思います。

田舎の町の小学校はどこか温かく、みんなが学ぼう！という意識が強く思います。市内の小学校でもまだお邪魔できていない場所もあるので、これからPR活動に力を入れていきたいと思います。



一身田 小学校

今回で5回目的一身田小学校は、本年度租税教室最多の129名の生徒を対象に、体育館にて開催しました。メンバーは寒さとの闘いでしたが、児童の皆さんは全く気にもされてない様子で、元気に質問やクイズに答えてくれました。今年もレギュラーメンバーの「シロモチくん」に加えて一身田の「しん坊くん」も登場頂き、講演中は大いに盛り上りました。租税教室終了後も「シロモチくん」「しん坊くん」に再度登場頂き、会場の寒さを吹き飛ばす勢いで大変に盛り上りました。



南ヶ丘 小学校

平成30年12月18日（火）に初めて南ヶ丘小学校で実施しました。

5年生4クラスの今年度、最多の131名の上、初めて津税務署長他2名の方々も見学に来られ、子ども達より、私たち青年部会のほうが、緊張していました。

今回は、シロモチ君に加え、急遽、しん坊君も登場し、子ども達の興奮もマックスだったと思います。最後は、ハイタッチで子ども達を見送り、多人数にもかかわらず、充分にふれあうことが出来ました。青年部会に入会して、初めて租税教室に参加しましたが、有意義な時間を過ごさせて頂きました。初めてづくしの租税教室でした。令和も頑張ります！！！



成美 小学校

平成31年1月18日（金）、近鉄久居駅前に位置する成美小学校の5年生2クラス57名を対象に租税教室を実施しました。今回は、1クラスずつ実施した昨年とは違い、2クラス同時に「ひだまり教室」というその名の通り暖かい日差しが入ってくる教室で児童数多く、にぎやかな雰囲気ではじめました。

最初のあたりは子どもたちも少し緊張している様子もありましたが、クイズをする頃には、ほとんどの児童が手をあげてくれたりして、集中して話を聞いてくれました。シロモチ君や一億円のレプリカの登場の時には、大きな歓声があがり、にぎやかな雰囲気も最高潮となりました。授業のあとには、子どもたちから笑顔で税金のことを少し理解できたことを教えてくれ、とても嬉しい気持ちになりました。



桃園 小学校

2/6（木）桃園小学校へ本年度最終の租税教室となりました。

はやり言葉を使うなら、「平成最後の」でございます。

広い田んぼを前にした、とてもどかな学校です。

体育館の2回というとってもレアな場所に案内され、5年生2クラスの皆さんにご参加いただきました。

いつもの会長の「こんにちわーすっ」に対しては、しっかりと「こんにちわーすっ」とのご挨拶。試しに「こんにちわーすすっ」としてみると「こんにちわーすすっ」のお返しです。とっても気を良くしたメンバーは楽しく講義を進めます。

しっかりと集中して聞いていただき、租税教室ラストに飾るにふさわしい素直な子供たち出会うことができました。

参加した法人会メンバーは「令和」へ向けてモチベーションが高まることでしょう。



誠之 小学校

平成31年1月22日誠之小学校にて、5年生2クラスを対象に各教室で、租税教室を行いました。

どちらのクラスでも、子どもたちの発言力や集中力には驚きました。

大人顔負けの意見を述べる児童もいましたがシロモチくん登場では、子どもらしい反応で笑顔が溢れ、とても楽しそうでした。

そして一億円レプリカで益々盛り上がり、子どもたちの目はキラキラしていました。

この授業では、税金の大切さや人としての思いやりの心を理解してもらえることを願い、わたしたちも一生懸命取り組んでいます。

3, 4限と続く租税教室では、クラスによって子どもたちの反応や教室の様子のちがいを知ることができ、講師側もとても有意義な租税教室となりました。



いきいきはげみ!

第31回

空港を降りるとその都市独特の匂いがあると言う。ハワイは南国の甘い花、バルセロナは焼けたパエリア、ソウルはキムチ…

私の降り立ったチェンマイ空港は、ジリジリと照りつける日差しで焼けた肌の匂い、排気ガスと砂埃が混じった鉄分の匂い、整備しきれていない下水溝から漂うすえた匂いがいきなり鼻をつく。

ここにはプレミアムなウェットティッシュも過保護なほど粘膜を労わってくれるウォシュレットもない。自分の免疫力に挑んでくるような五感を鋭く突き刺さすスパイクの香りが、むせ返るほど充満しているエネルギー溢れる街があるだけだ。

チェンマイとの出会いは7年前。とかく日本人は画一的で没個性で同調性を重んじる国民だと言われる。

個性や自分の利益を主張し、貫き通すことで、大陸続きの隣国から自国の王朝を守り抜いたしたたかな面をも併せ持つ国がタイ大国でもある。街の中心に当時の王宮が存在したチェンマイには、静かではあるが脈々と受け継がれる精神性がある。日本人からすると、観光でショートステイしている時に見せる穏やかなホスピタリティとは別の、押しの強さに驚かされることもある。

7年間を振り返ると、日本とはかけ離れた国民性、生活習慣、常識、商取引などを知ることで、違うものを受け入れることに寛容な気持ちと、相手に寄り添い過ぎない自立した意見を持つことの重要性を教えてくれた時間だったように感じる。

チェンマイの若者は親を大切にする。これはチェンマイに限らずアジア全体に当てはまるのかもしれない。

結婚する時に結納金を渡すのが通例だが、その額が物価水準を考えてもかなり高額である。理由は今まで自分を養育してくれた経費を、親に対して精算するような考え方だそうだ。

しかしながら結婚した後も親の面倒はよく看る。なんなら親戚のおじさんおばさん、自分が生きてきた中で世話になった目上の人々の面倒もよく看る。

チェンマイ郊外にはこのようなムラ組織が今もまだ色濃く残る。

中には収入や貯金がない相手と結婚する兄弟もいて、そういう兄弟は肉体的な労働力や献身的な世話をする部分を負担し、経済力のある兄弟が金銭的な出費を受け持つ。

社会保障制度が日本ほど整備されていない中で、前の世代を作ってくれた人を今の世代が支えるのは当たり前の負担なのかもしれない。現代日本では希薄となった世代間の助け合いのようなものを、ここでは今も感じる時がある。

しかしながらタイの合計特殊出生率は1.48で、日本の1.44とさほど変わらぬ少子化国家となりつつある。少子化問題は高齢化が進むタイでも喫緊の課題のひとつとなっている。

「愛イコールお金」という方程式がタイでは存在すると言われる。「私や私の大切な人達を養ってくれるあなたこそ愛すべき人」という究極な純愛の形が存在すると同時に、現実的な養い手不足なのかもしれない。養える幅にまだまだ余裕がある方は、ぜひ渡泰してもらいたい。昔ながらの考えが首都バンコクよりも色濃く残る、昭和生まれのおじさんにはたまらないチェンマイである。

チェンマイの男性は基本働かない。というと語弊があるが、女性がとてもよく働き能力も高いように感じる。私見だが、私が知り合った男性たちは、話が楽しくて明るくてクヨクヨしない。明日の生活はあまり考えず、でも真剣に今夜のムエタイの試合の勝ち負けを仕事中に分析するような愉快な人達である。

もちろん貯蓄はせず通勤の足となるバイクや車はもとよりいろいろな買い物を月賦で買う。そのため借入金利は安く、預入金利は政権の安定性以上に高いのは国民のニーズが影響しているのかとも思う。

それに比べて女性達は家事をして育児をしながら露店でモノを売り、夜は旦那にバイクで送ってもらってバーでホステスとして働く。旦那の月賦の大半を毎月支払っているのは紛れもなく彼女たちである。傍目から見ても家庭を支えているのは女性で、国の経済を文句の1つも言わずに支えているのはこうした肝っ玉があちゃんに違ひあるまい。